

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社は・経営理念を職員の休憩室に掲げ、ミーティング時には必ず唱和を行っている。	社は、法人理念に合わせ年度初めに職員で決めた「年間取り組み目標」を休息室に掲げ、ミーティング時に唱和をし実践に繋げている。家族に対しては利用契約時に説明している。職員は理念と年間目標を理解し利用者に寄り添い支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者が地域の一員としての暮らし続けることが出来るよう、地域における交流を大事にしています。年2回の防災訓練、ニチいまつりの開催、自治会の夏祭り、運動会等への参加。	法人として自治会費を納め、自治会長より地域の情報をいただき年2回の防災訓練や夏祭り等、参加できる行事に参加し地域の一員として活動している。月1回から2ヶ月に1回位、小学生10名～20名の来訪があり作品のプレゼントや肩たたき等で交流し、運動会の見学にも出掛けている。保育園児の来訪も年2～3回あり、楽しいひと時を過ごしている。また、月1回体操の先生の来訪があり、歌に合わせしっかり体を動かし体力維持に努めている。合わせてハンドマッサージ、社交ダンスのボランティアの来訪も定期的にあり楽しみの一つとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のサマーチャレンジボランティアを受け入れている。 委託訓練生の受け入れも行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民、家族代表、地域包括センターの職員、行政代表の参加のもと2ヶ月に1度開催し、状況報告や意見交換を行っている。	家族代表、自治会長、副会長、市介護高齢課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、法人上田支店課長、小規模多機能型居宅介護管理者、ホーム関係者の出席で併設の小規模多機能型居宅事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。自治会長からは地域の情報を頂き、利用者の状況報告、事故報告、活動報告、活動予定、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、市の高齢者介護課と連携を密にしご指導、助言等頂いている。	地域包括支援センターと連携を取り地域のお年寄りへの対応について相談を受けている。市介護高齢課には事故報告等を行い連携を深め、助言も頂いている。市介護相談員の来訪が2～3ヶ月に1回あり、利用者から傾聴し口頭での報告があり、その内容を支援に役立てている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて実施している。市主催の認知症実践者研修にも参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての自社マニュアルを元に毎月職員間で共用理解しケアに取り組んでいる。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されているがきめ細かく所在確認を行うようにしている。外出傾向の強い元気な方がいるがホームの周りを散歩することで対応している。年1回管理者が講師となり身体拘束についての研修会を行い理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。		

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自社マニュアルを元に毎月職員研修を実施しケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識不足な面もあるので必要に応じて勉強会などを開き、学ぶ機会を儲け知識を高めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時は十分に説明を行い、理解・納得を得るよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時には気楽に話すことが出来るよう配慮している。また、苦情窓口の説明も契約時に実施している。	元気な方が多くすべての利用者が言葉での意思疎通が出来る。家族の来訪は月1～2回位の状況で日頃の様子を伝え、お茶を出して居室にて寛いで頂いている。ホームの夏祭りや敬老会にはお孫さんが来訪し一緒にゲームやおやつ作りを利用者と共に楽しまれ、また、誕生日や母の日には花のプレゼント等をお持ちになる家族もいる。また、月1回の外出レクリエーションも家族の協力を頂き実施している。お便り「中塩田グループホーム便り」を2～3ヶ月に1回発行し、家族等に利用者の様子をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見や提案を聞けるようにしている。また、職員間のノートと作り自由に意見が書けるような対応をしている。	月1回職員が多く出席できる日を選び職員会議を行っている。利用者一人ひとりについて意見を出し合い、ケアの統一を図りつつ合わせて各種勉強会も行っている。職員のキャリアアップ制度があり、職員は目標シートを作成し自己目標を立て、年1回年度末に施設長と管理者による個人面談が行われ振り返りと評価に繋げている。引き続き法人としてストレスチェックも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて面談を実施している。また、働きやすい職場作りを目指して、職員とのコミュニケーションを取るようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外に問わず研修の周知を行い働きながらのスキルアップを促している。毎月の業務ミーティングには研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で同業者との交流する機会を作り、それを基に高いサービスの提供ができるよう取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な様子が見受けられた際には傾聴し、ご利用者に安心感を与えられるような対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時だけでなく、何か不安なことがあればいつでも相談して下さいと日頃からお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかを見極めるために、アセスメントをきちんと行い、適したサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰介護になってしまわないよう、自立支援を念頭に置き信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者に何か変化があった際にはすぐご家族に連絡している。面会や外出、外泊はいつでも行えるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時面会を受け入れており、馴染みの場所に家族と一緒に出かけられる体制作りや、誰でも面会に来てもらえる雰囲気作りをしている。	同級生や知人の来訪がありお茶を出し居室にて寛いで頂いている。独居から入居された利用者がおり希望により生活支援サービスの職員が付き添い、お墓参りや自宅を見に出掛けたりもしている。また、家族と日用品等の買い物に出掛ける方もいる。併設の小規模多機能型居宅介護に知り合いの方が来られることもあり行き来されている利用者もいる。今年の年末には利用者一人ひとり、手作り年賀状を家族にお出しする予定がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居してしばらくは、早く他のご利用者と顔なじみの関係になれるよう、職員が話の間に入るなどして対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の意に反し(入院等)退去となった方に面会やお見舞いなどをして、退去後のご利用者との関係も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望を表情や言葉、言動などから察し、利用者本位の支援ができるよう努めている。また、職員間の話し合いの中からも検討している。	全利用者が意思疎通の出来る状況で、希望を受け止め支援に取り組んでいる。洋服選びは何種類か提案し最終的にはご自分で決めていただくよう進めている。食事の希望もテレビの料理番組等を見て「あれ食べたいね」という希望に出来るだけ合わせるよう努めている。遠慮がちな利用者もおられるので居室にて希望を聞き希望に合わせた支援に取り組んでいる。家族からお聞きした生活歴も参考にし、日々の言動等は介護記録に纏め常に確認し、希望に沿った支援に取り組むよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から聞き取りをし、分からない部分については随時把握するよう努めている。また、本人と生活していく中で得た情報を記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックの実施。更衣時や入浴時に身体状況の観察や申し送りによる情報共有をしっかりと行い、現状の確認を職員で統一している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでご利用者の状況を把握し、支援内容に変更があれば随時介護計画書の見直しを行っている。	職員は1～2名の利用者を担当し、モニタリング、経過支援シートの作成、日常生活支援シートの作成、居室管理、介護用品の管理を行っている。月1回のミーティングで利用者の状況を把握し、半年に1回、短期目標に対する達成状況をモニタリングシートを用いて評価し、ケアマネージャーがプランを作成し管理者が確認している。短期目標は6ヶ月とし状況に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを介護記録に残し、職員間で情報共有している。お客さまに変化が生じた際には、必要に応じて介護計画書の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対し職員間で柔軟に話し合い、ご家族にも協力を得ながらサービスの提供に努めている。		

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人ができる事を見極め、心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを送ることができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医をに関してはご本人やご家族の意向を優先している。提携医を希望されと、月1度訪問診療がある。	利用契約時に希望をお聞きし対応している。現在は全利用者がホーム協力医の月1回の往診で対応している。毎週火曜日には契約の訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理を行い医師との連携も取り、24時間オンコール体制も取り万全な医療体制となっている。歯科は協力歯科の月1回の往診で口の健康にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護師がご利用者の健康チェックをしに来て下さっている。24時間態勢で連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報(既往歴やADL)を病院に伝え、分からないことがあった際にはその都度対応している。お客さまが安心して治療を受ける体制作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、終末期についての会社の方針を伝え理解を得ている。ご家族の意見を聞きながら、ホームでできる事を説明し、提携医と相談しながら支援していくよう努めている。	「重度化した場合における対応に係る指針」があり利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。重度化、終末期に到った時には家族の希望もお聞きし、医師と相談をしながら医療行為が必要とされないぎりぎりの状況迄支援に取り組み医療行為が必要となった場合医療機関、他施設への住み替えを含めた支援に取り組んでいる。医療行為が発生しない場合には看取りも行えと説明している中で開設以来1名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置と緊急時の対応について適宜研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて地域住民にも協力を得ながら避難訓練の実施を行い、全職員が避難方法を理解している。	年2回併設小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、消防署員参加の下、回覧板にて近隣にも告知し防災訓練を行っている。自治会長、副会長、民生委員、近隣住民の皆様の参加を得て行い、水消火器を使つての消火訓練、通報訓練、緊急連絡網の確認等を行っている。また、避難訓練は近隣住民の皆様への応援も頂き、車イス利用者も含めた利用者全員が外まで移動して訓練を行っている。また、年1回の災害時対応の研修会や災害マニュアルの整備も行い、防災意識を高め取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にして、個々にあった声がけをしている。特に排泄は他人に分からないように配慮し、プライドを傷つけないように努めている。入浴時はカーテンを引くなどして環境に配慮している。	言葉遣いには特に気配りし、人生の先輩として尊敬の念と親しみを込め接するように心掛け、入室の際にはノックと声掛けを怠らないようにしている。また、入浴時に脱衣所のカーテンを閉める事を忘れずに外から見えないよう配慮し同性介助にも気配りをしている。「プライバシー保護」「接遇」についての研修会を年1回行い職員間で確認し、利用者との良好な関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との関りを大切にし、何でも言えるように信頼関係を築くよう努めている。思いやりや希望が叶えられるようにご家族の協力をいただき支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはご利用者のペースに合わせて進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分らしさが表現できるような身だしなみやお洒落ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞くなどしてできる限り希望に沿ったものが提供できるよう努めている。旬の食材を取り入れることで季節感を味わっていただいている。	介助が必要な方が若干名いるが、他の利用者は自力で食事が出来る状況である。献立は冷蔵庫の中の食材を使い、前日とダブらないよう心掛け「家庭料理」を意識したものをお出しするよう心掛けている。元気な方が多く、御手伝いは下準備から食器拭きまで力量に合わせ参加している。誕生日には希望をお聞きし好きな物を出し、おやつは「ホットケーキ」「柏餅」「ゼリー」等を手作りし楽しんでいる。また、夏祭り、敬老会等の行事には「ちらし寿司」を作り、年末には「そば」や「お寿司の出前」を取り、合わせて「おせち料理」をホームで作り年末年始の気分浸っている。更に、季節に合わせ「キノコ料理」や「御蕎麦」の外食にも出掛け季節感も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い献立作りを心掛け、個々の適量を把握し、その方にあった量を提供している。また、毎回の食事量や水分量を記録に残し検討・確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた口腔ケアを毎食後に実施している。過介護にならないよう配慮している。		

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するために記録をつけ、職員間の情報を交換し共有している。習慣を活かした声がけをしている。	自立されている方は若干名で、一部介助の方が半数強おり、全介助の方も数名という状況である。排泄表を用いパターンを把握し、基本的に2時間を目安にトイレ誘導をようようにしている。トイレ介助には特に気を使い他の人にわからないよう配慮し誘導している。スムーズな排便促進を図るため水分摂取に合わせ毎朝の乳酸飲料の摂取にも努め、また、食物繊維の多い食材を多く調理に使うよう心掛けている。また、介護用品も法人のプライベートブランド商品を纏め買いすることで経費削減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を提供し、食物繊維が豊富な食材を使用したり発酵食品を取り入れ便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前浴か午後浴かご本人に選んでいただいている。希望に沿って入浴できるよう心掛け、慌てずゆっくり入っていただけるように支援している。	見守りでの自力の方が若干名おり、他の方は介助が必要な状況である。基本的には週2回の入浴を行い、希望で3回入浴される方も居られる。拒否の方もいるが時間を変え職員を変え対応している。毎日お風呂を準備し、浴槽のお湯は一人ひとりその都度入れ替え、全国の温泉入浴剤と合わせ季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等を行い、気持ちの良く入れるように演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休んでもらえるように布団干しやシーツ交換はこまめに行っている。生活習慣や個々の状況に応じて、休息や安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について全職員が理解し、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵手紙、ハンドマッサージ、体操先生といった方がボランティアとして毎月来て下さっている。季節ごとに畑や花壇作りの支援を行っている。洗濯物干しや食器拭きなどを手伝っていただいている。		

ニチイケアセンター中塩田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、外出レク、お買い物などの支援を行っている。普段行けないような場所にはご家族の協力を得ている。	外出時、自力歩行の方と車イス使用の方がそれぞれ半数弱という状況である。天気の良い日には周りを散歩したりホームの畑まで収穫に出掛けたりしている。合わせて午前と午後の2回体操を行い体力の維持に努めている。年間の行事計画があり、年初めにはタクシーで近くの神社に「初詣」に出掛け、6月には「プラネタリウム観賞」にも出掛け楽しんでる。更に、近くのお菓子屋さんに「アイスクリーム」を食べにも出かけ皆さん喜ばれている。また、家族の協力も頂き上田市内の大型ショッピングモールに買い物に出掛け楽しいひと時を過ごすこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして金庫にてお預かりしている。外出の際は自分で支払ってもらうことも支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客さま自らが電話をかけることはほとんどない。ご家族から電話を受けることもある。希望があればいつでも電話が掛けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるカレンダーをご利用者と一緒に制作し、清潔で明るいフロア作りをしている。また、散歩等で摘んで来た花をテーブルに飾るなどしている。	1日の大半を過ごすホールは陽当たりも良く、明るく、十分な広さが確保されテレビの前には人数分のイスも準備され自由に過ごす場作りがされている。そのような中、会話を楽しみ賑やかに寛ぎ利用者が仲良く過ごしている。廊下の壁には貼り絵、絵手紙等の利用者の作品と行事の際の写真が飾られ日頃の様子を垣間見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは個々の定位置がほぼ決まっていて、気の合う方と席を共にされている。普段と違う席に座りトラブルになりそうときは職員が間に入りサポートしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し馴染みの家具や道具を持参していただくことで、以前の生活にできる限り近い空間を作り安心して過ごせるよう工夫している。	広々とした居室は掃除が行き届き、合わせて大きなクローゼットが完備され整理整頓も行き届き、綺麗な中で生活している。ハンガーラックに多くの洋服が掛けられ女性らしさを感じられる居室が見られた。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、テレビ、家族の写真、また、家族から送られた「お花」「季節に合わせた人形」等にも囲まれ思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事や分かることを把握し、自立支援を念頭に置いた上で、安全な生活が送れるよう支援している。トイレも一目で分かるように表示している。		